

平成30年度 えりも地域ゼニガタアザラシ保護管理協議会

議事概要

平成31年3月12日（火）15:00～

場所：えりも町林業センター

**議事①平成31年度環境省えりも地域ゼニガタアザラシ管理事業実施計画（案）について**

○事務局から、スライドを使って説明

◆3年間の事業まとめと平成31年度の計画（暫定版）について

・事業は「被害防除対策」と「個体群管理」の大きな2つの柱であり、平成31年度以降も継続する。これまでの捕獲数は、平成28年が45頭、平成29年が137頭、平成30年が143頭。3年間の合計で329頭。

・当初の計画では3年間で100頭ずつ捕獲し（実際には初年度の捕獲数が少なかったため、2、3年目は140頭ずつと修正された）、それ以降は年に25頭ずつの捕獲を行えば、事業開始（平成28年4月）の個体数から8割程度を維持できるとシミュレーションしていた。

・3年間の事業を経て、最新のデータでシミュレーションの補正などを行った結果、8割を維持するには40頭程度が妥当と科学委員会で提示された。現在新しいデータを元にシミュレーションの見直し等を行っているところで、これには今しばらくの時間を要する。まずは平成31年度の捕獲数を「暫定的に40頭」と定める。ただし、見直しの議論を踏まえ、年度内の実施計画の見直しも検討する。

・この3年の実績から捕獲方法の改善により効果的に捕獲を行えるようになってきた。サケに固執するような大型個体を中心に「量」より「質」を重視した捕獲を行っていきたい。

・追加的な調査として、刺し網で捕獲した20頭程度の個体に発信機を付けて放獣し上陸割合を再度調べる予定。これらを基に個体群シミュレーションに使用するデータの精度を高めていきたいと考えている。

○主な意見

◆漁師は、漁獲量の減る格子網は基本的には設置したくはない。（漁業関係者）

◆えりも地域に何頭のゼニガタアザラシがいるのか把握できないと捕獲数を決めるのは難しい。シミュレーションするしかないが難しいと思う。捕獲数が減って被害状況がどうなるか毎年データを取っていくしかない。（漁業関係者）

◆被害が広範囲になっているので、岬の上陸数だけを見ても正確な数字は把握できないのではないかと。広範囲に広がった生息数をどのように把握するのか。（漁業関係者）

→格子網によって入れない個体が他の場所に移動していることは確か。庶野の混獲が多かったのがその例ではないか。（委員）

◆来年度は大型個体を中心に捕獲すると言っているが、今までも同じ目標でやってきたと思うが、できていないのに今度の目処や自信はあるのか。(漁業関係者)

→刺し網で幼獣が多いのは、数合わせになってしまっていた。しかし定置での捕獲網では、網や構造の改良により大型個体も獲れてきている。(事務局)

→春定置の足りない分を秋定置でしっかりと補完できるのか。(漁業関係者)

→年間の捕獲が目安に達しない場合は、翌年春に加算して調整する方法が考えられる。実施期間の開始時期を秋にずらすのではなく、年度をまたいで調整したほうが柔軟に対応できてよいのではないかと考えている。(会長)

◆当初900頭くらいだった個体群をこの3年間で8割程度の700頭くらいとなったということだが、これは推定の話。推定の数字で捕獲数を減らしてほしくないのが、調査の精度を高め漁業者が納得する形にしてほしい。私達は被害を軽減したいということが目標であって、ただらと年数をかけてやっても困る。(えりも漁協)

→40頭はあくまで春事業開始時の暫定の数値で年度途中の見直しを検討する。被害状況も見ながら検討していきたい。(事務局)

◆発信機を付ける個体は何で捕獲したものか。(えりも漁協)

→主に刺し網で捕獲した20頭に発信機を付けて放獣する。40頭の捕獲とは、個体群から除去するという意味で、発信器の試験とは別にカウントする。(事務局)

◆サケの被害を中心に議論しているが、タコも被害がある。タコのことはどう考えているか。(えりも漁協)

→報告にはなかったが、タコの方もカメラを付けて調査している。平成30年度はタコの漁獲量が少なかったのが試験がうまくっていないが引き続き調査を行っていく。(事務局)

## **議題②次期管理計画策定の進め方について**

○資料2に基づき事務局よりスケジュールを説明。次期の管理計画は平成32年度より発効するために、平成31年は各種会議を効率よく進める必要がある。調整もあるので予定よりも早めに対応することを検討している。

## **議事③その他**

○平成27年から行っているゼニガタアザラシ学習観察会を3月17日に開催。アザラシ観察とともに、えりも郷土資料館館長、えりも自然保護官事務所が講演。(日高振興局環境生活課)

以上